

作業員ハートフル♥サポート -Twitter 限定-

このマニュアルは、『作業員対策プログラム』の上級テクニックです。

カウンセラーやアドバイザー志望の方は、是非、後半のハートフル・サポートを実践してみてください。

このプログラムは字数制限のある Twitter に特化したものになっています。

～ 作業員の思考・行動パターン ～

ネット作業員とは『**非生産的な言論、執拗なまわりつきという手段で、他人や世界を変えようという試みを強迫的に行い続けるネットユーザー**』を指します。

非生産的な言論とは、**単純な中傷**(「バカ」「デムバ」「死ね」「キモ」)や、**挑発的な返答**(「はあ?」「お前もな～」)などが代表的です。会話とは本来、情報の伝達のためのコミュニケーション手段なのですが、作業員は伝えたい情報を含まない単純な言葉の執拗な投げかけにより、「自分をわかってもらおう」「相手を降参させよう」という激しい欲求を充足しようと試み続けるのです。「何も満たされず、何も進展せず、ただただ時間を浪費してしまう。」ということに気がつくことができないまま、「いつか自分の願望どおりの世界が成就する」という幻想を追いかけ続けている状態に留まっているのです。

中傷、挑発は言葉数の少ない幼児～学童期の**自己防衛の反論パターン**です。このレベルの言葉のやりとりは”対話”という次元に達していません。

よく「作業員とは、まともに議論できない」と嘆くユーザーがいますが、そもそもコミュニケーションの次元と目的が異なっているから無理なのです。

作業員の会話は、相手との意見のやりとりより、自己顕示と自己防衛が主な目的になっています。防衛すべきものには「自己の信条」「共感した理念」なども含まれます。中傷、挑発が発せられる背景には「**攻撃的な言葉で防御を固めなくては**」という強固な**防衛心理**が働いており、**防衛の裏には「恐れ」と「傷つきやすさ」**が隠されています。

反対意見を持っているから・・・、ケンカしたから・・・といって作業員と決めつけてはいけません。

本プログラムは中傷と挑発をし続けるというパターンに陥ってしまった作業員を対象としていますので、別の反論パターンについては、また別の機会に触れることにします。

(興味深いことに反論形式もまたパターン化されており、お決まりのセリフがいくつかあります。パターンの共有を通して絆を作ったり、言動をイデオロギーと同一化することで没個性を試みることは、脆弱な個人という存在を隠し、大きなものの一部になって強大になれたのだと錯覚し安心感を得るといった効果があるのかもしれない。)

- 作業員の自己認識について -

作業員は、誰も「**あなたが作業員だ**」と指摘していないのにも関わらず、「**作業員**」という言葉を見ると「**差別だ!**」と憤慨します。自ら差別された!と主張するので、**自分は作業員であるという認識を持っているのです**。しかし心に秘めていればよいのに、なぜそれを公言するのでしょうか?考えられる動機としては、

- ・ 周囲から見れば自分の行いが「作業員の行動様式と同じことは明確であることを認識しており、若干後ろめたい意識を持ちつつも、同じことを行っているユーザーも沢山いるという安堵感から、仲間に自分の存在をアピールをして、連帯感を感じて、安心したい所属要求が働いている。
- ・ 悪役への「憧れ」と「同一化」が働いている。「我こそは反逆者!」というアナーキーな気分浸っている人が「俺は作業員だ」と名乗り出ることがあります。

～ 強迫的な行動を支える動力源 ～

作業員は大抵、長時間、ネットにアクセスしています。その大半の時間を中傷や、挑発をし続ける、「まわりつき」に費やします。

単純な中傷、挑発を、長い年月に渡りし続けることで、かなりの体力、精神力を消耗します。しかし払っている代償のわりに具体的な成果はいつまで経っても現れません。同じことの繰り返しです。作業員が嫌がらせをして「やめさせた」ユーザーは、また別の場所で復活して、ネットで発信したりしています。このように成果が現れないのに、彼らがパソコンの前に座り続け、スマホや携帯からも、作業員として活動し続けるのはどうしてでしょうか?

しかも、「作業員と言われた!」と「差別だ!」と憤慨する割に、自ら進んで実践し、作業員を演じてしまうのです。そこにはどんな理由があるのでしょうか?

あなたには、こうした試みを際限なく日々繰り返し続ける自信がありますか?

【人間は心理的飢餓感(激しい欠乏感)によって、突き動かされる。】

人間は「欲求を満たそう」「欠乏感を満たそう」という衝動を持っています。

欲求はマズローの心理学を参照のこと。(ページ数の関係で、説明は割愛いたします。)

ここでは「**欠乏感**」にクローズアップします。一体、何が「欠け」ているのでしょうか?

心理的な飢餓感として感じるものは、主に、幼児期に満たされなかった愛情や、解決されていない問題です。

それらは言語化されて表現されない限り、心の片隅に”漠然とした不安”として居座り続けます。

この「漠然とした不安を取り除きたい！」「欠けている不完全な感じを取り除きたい！」という要求は非常に強烈に働きます。

多くの人はあらゆる手段を用いて欠乏感の埋め合わせをしようとしますが、多くの場合、試みられる代替手段は的はずれなものであり、一時的に欠乏感から目を背けることには成功しますが、満たすことはできません。

満たすためには、それと正面から向き合い対峙しなくてははいけません。しかし、この欠乏感は幼児期の悲しい出来事や、長年目をそらさずにはいれなかった問題そのものなので、直視することはなかなかできません。

もう、おわかりでしょう。

作業員が**執拗な言動を長期間継続できる理由**は、それが「**不安から逃れるための自己防衛の方法**」だからなのです。

問題から逃避することで、一時的に気を休めることができるのです。しかし逃避が目的なため、普通の行動では穴は埋められません。

行動は過激に、極端になり、強迫的に繰り返さずにはいられなくなってしまうのです。**ネット依存の一つの形態が”作業員”というパターンとして現れているのです。**

精神的に成長し、直視する強さを獲得すれば、この欠乏感を埋めることができるようになります。

作業員の言動を見ますと、**人間関係が希薄**、または**人生経験が不足**していることが伺えます。

それは、**成人してからもなお、幼児的なコミュニケーション手段を維持し続けることに成功している**、という現状を見れば明らかです。

もし日頃から多様な世代、多様な人種、多様な意見・センスを持った人々と接していて、仕事や趣味を通してあらゆる人生の苦楽を経験しているのであれば、

「パーカ、パーカ」という連呼をしている自分の姿が、第三者からどのように見えるのか？ということに**考えが及ぶはず**なのです。

知識の吸収に固執している作業員もよく見かけます。

彼らは「自分が認めた情報」だけと親和し、他は全て排除します。

自分の好みに合わないものは、彼らにとってはどんなものでも「科学的根拠がない」「似非科学」であり「新興宗教」であり、到底理解することができないものとして避ける対象となってしまうのです。幅広い分野に興味をもったり、多様な意見を見聞きすることを徹底的に拒否する背景には、**「死守しなくてはならない自分の領域」**があるのです。そして**その領域の境界(殻のようなもの)の脆弱性を薄々感じているからこそ、異物を排除するために攻撃的な言葉を連呼して、必死で防衛しようとするのです。**

しかし、せっかく得た知識もその多くは活かされず「自分は知っているんだ」という自慢で終わっています。咀嚼して自分の意見、考えを発展するという展開をしないのです。ただの受け売り、コピペで終わってしまう。そして他人に伝達するときにもコミュニケーション能力が乏しいために、発言は下品な口調になってしまったり、「バカ」の連呼で終わってしまうことが多く、何人も説得するにはいたらないのです。これは非常にもったいないことです。

～作業員の更生の目的と救済の必要性について～

・非生産性と人生の浪費が、破局的な段階になる前に作業員を支援する。

作業員は、どれだけ情報を得たか、自分の共感するイデオロギーに反する人間にどれだけ嫌がらせを続けたか？を自慢することで、自尊心を保っています。

しかし、これが多大な時間の浪費でしかないということに気が付きません。彼らの人生の時間は、この無意味さのために失われてゆきます。

その結果、本人のみならず家族にも、悪影響を与えることとなります。たとえば、そんな時間があつたら親孝行や兄弟との絆を深めることができたのに・・・といった悔恨を残すなど。

この家族の悲劇は、社会コミュニティにも影響を及ぼします。社会は、つながりによって形成されているからです。

・コミュニケーション能力開発の機会と可能性はある！

ポキャブラリーに自信がないため、現実の人間関係の構築から逃避する傾向が強い作業員達。

ネットの滞在時間、アクセスの頻度からも、状態が伺い知れます。

口下手を治すには？情報を相手に伝達するにはどうしたらいいのか？

実用的な救済方法は、ネットを通じて、レッスンをすることです。それしか手段はありません。

・IT時代の弊害を考える。

作業員も時代の犠牲者です。IT時代に生まれたがために自然との触れ合う機会を失い、立体的な経験の代わりに、平面の世界で一喜一憂をするという灰色の世界で虚しい喜びを体験する事態となったのです。

インターネット上の“釣り”は思い出に残りませんが、家族で行った釣り堀の思い出、早朝の海釣り、潮風、さざなみ。そういったものは、記憶に残り、後に懐かしさになり、人生に彩りを加えます。

人間性の回復という社会、文化的な意義のためにも、作業員といえども無視をせず、きちんと向き合って関わる姿勢を忘れてはいけません。

Twitterを使ったコミュニケーションレッスン

作業員とコンタクトをとるには、インターネットしか手段はありません。

本マニュアルでは、字数制限のある **Twitter** を使った**作業員ハートフル・サポート**をメインで紹介します。

①遭遇

常に出会いは「**受身の姿勢**」を心がけます。

こちらから初対面の作業員に、話しかけてはいけません。そんなことをすると、作業員から作業員だと思われてしまいます。始めから本末転倒にならないように気をつけましょう。**受身とは、突然からまれた状態**をさします。

②作業員には独特のあいさつがあります。

いきなり作業員は、「バカ」「キモ！」とカキコンできます。こういった単純な中傷は彼らのルーチンワーク。「こんにちは」と同じようなものです。

これは彼らのコミュニティ特有の挨拶だと理解し、激怒したりしないようにしましょう。

③「ありがとう」を心がけよう。

彼らは挨拶と一緒にリツイートもしてくれます。そうやって、拡散の手伝いをしてくれます。コミュニケーションに慣れていないから、つい、こういうやりかたをしてしまうのです。**怒らずに「リツイートありがとう」とお礼を言いましょ。**

中傷と挑発以外にメッセージがあったら「多様な(貴重な/斬新な)ご意見ありがとうございます。」とお礼を言いましょ。

④常に、元気が出るポジティブメッセージを送り続けよう。

作業員は心に寂しさを抱えているため一度話ができそうな人を見つけると、なかなか離れようとはしません。

作業員の寂しさに寄り添い、励ましたり、良い情報を教えたりしましょ。

一日でも早く寂しさ、空虚さから解放されるよう、「**元気が出る言葉**」を、たくさん投げかけてあげましょ。

決してムカツクから、からかってやろうと思っははいけません。**真摯に相手のためになる言葉を選ぶ**ように心がけましょ。

ただし相手から返信がなくなったら、そっとしておいてあげてくださいね。

ポジティブメッセージのバリエーションを増やすために、本マニュアルの読者の皆様は、論語、ことわざや偉人のことば、絵本や詩、文学、映画といった多種多様な媒体から多くを吸収し、活用してゆきましょ。インプットとアウトプットで効率的に身につきます。

言葉が豊かになると、いつのまにかに心や人生も豊かになっていますよ！

作業員の不器用なコミュニケーションを温かく見守り、優しく「正しいコミュニケーションの取り方」を根気よく教えてあげましょ。

日々、ポジティブワードに触れることにより、作業員の心の傷も少しずつ癒されてゆくでしよ。

会話を続けることで、寂しさの溝も埋められてゆくことだしよ。

彼らが次第に自信を回復し、平面の世界から立体的な場に回帰し、自然や動物、家族、友人達と豊かな人生を築くことができたとき、

作業員も作業員にからまれた人々も、Win—Win の関係になり、勝者も敗者もない“共存共栄”の世界が実現するのです。

☆作業員ハートフル・サポートの輪を拡げてゆきましょ。作業員の熱烈なアプローチに、どうしていいかわからず、怯えているお友達に教えてあげてください。